

次のとおり令和 4 年度 (2022年度) の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 学科の特性や専門性を生かし、生徒の多様な学習ニーズに応えるとともに、学科間の連携を通して、高校教育として共通に求められる知識や技能を修得させる。(全日制)
- 協働する教職員組織の確立を図り、創意と活力に満ちた魅力ある学校づくりを目指す。(定時制)

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程・学習指導	・今年度から導入された学習指導要領を踏まえ、教育課程の進路希望に合わせた活用を図り、生徒の個性や能力を伸ばすことに取り組んでいる。また、ICT機器等の積極的な活用を進めている。	・保護者アンケート・評議員の評価から本校の教育活動に一定の評価をいただいていることがうかがえる。
改善方策	学習指導要領を適切に実施し、生徒の学びの充実に努める。校内研修等を通じて教職員の指導力を向上させる。	・複数科目を含む複数学科設置の特色が展開されている。また、高大連携をはじめ、外部との連携も積極的に進めている。
生徒指導	・学校の行事や地域の活動を実施し、生徒の自主性を発揮させる。また、生徒の生活態度や学習態度の向上を図る。	・コロナ感染症終息に向けた学校行事の復活が進み、部活動にも積極的に参加しており、生徒が心身共に成長している様子がうかがわれる。
改善方策	日常的な観察や面談を進め、得られた情報を教職員全体で共有し、生徒理解に努め、予防的指導体制の充実を図る。	・SNSの使用状況によっては、保護者とも連携しながら、危険性について十分に認識させる指導が必要である。
進路指導	・生徒には、主体的な進路選択能力を身につけ、情報提供に努める。また、生徒の主体的活動を促す指導を行う。	・難関大学への合格は現役生徒の励みになる。
改善方策	3年間を見通した指導計画に基づき、生徒が主体的に自己の将来について考える姿勢を育成する。職業人による講話や専門学校の外部と積極的に連携を図り、学年段階に応じた指導と情報提供に引き続き努める。	・今年度の卒業生には系統的な指導が進路決定状況に大きな成果をあげている。
健康安全	・感染症対策に追われた一年であったが、終息が見えてきたが、教職員一同、一貫した手洗い、検温等の基本的な予防対策指導を徹底したことによって効果が得られた。	・教育相談の連携体制充実のため、外部人材活用を積極的に活用できる充実した校内体制を構築する必要がある。
改善方策	今後もコロナに限らず感染状況に応じた実効性のある感染症対策と生徒の意識醸成に努める。各種事業を活用しながら、SCやSSWの外部人材を積極的に活用するとともに、自治体の関係者との連携を密にしながら教育相談体制を充実させるよう今後も活用枠の拡大を要望していく。	・地域で生徒の活躍する話題が多く、きめ細かな教育活動がなされ、成果をあげている。これらの取組を積極的に外部へ発信すべきである。
その他	・学校活動を積極的にHPを活用して発信することに取り組んだ。	・メール配信サービスやHPを活用し、感染症対策や自然災害時の連絡体制を整備する必要がある。
改善方策	各行事や地域での取組をもとに、HPや報道機関を活用して積極的な発信を行う。また、パンフレットや学校説明会の内容を工夫し、各学科の魅力を中学生や地域へ発信する。地域の教育力を活用した授業実践や各行事への保護者の参加を促し、開かれた学校運営に努める。	・定時制課程の継続的な振興、支援も重要である。
公表方法	PTA役員会及び総会等で保護者に配布するとともに、HPで公表する。	